

## 「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」最終評価結果表

研究領域等	グローバル・イシューに対応した新たな地域研究の可能性の探索 —人的移動に伴う社会問題
研究課題名	バングラデシュの社会経済的格差と労働移動に関する実証的研究： 境界を越える人々
責任機関	山口大学
研究代表者	人文学部・准教授・山本 真弓
研究期間	平成19年度 ～ 平成20年度
主に研究対象とする国名	(バングラデシュ)

## 総合評価

- S. 所期の研究計画以上の取組が行われた。  
 A. 所期の研究計画と同等の取組が行われた。  
 B. 概ね所期の研究計画と同等の取組が行われたが、一部で当初計画以下の取組もみられた。  
 C. ある程度所期の研究計画と同等の取組が行われたが、当初計画以下の取組もみられた。  
 D. 所期の研究計画以下の取組であったが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられた。  
 E. 総じて所期の研究計画以下の取組であった。

## 〔コメント〕

本研究課題は、バングラデシュにおける階層と人的国際移動のメカニズムの解明ならびに受け入れ国日本の移民政策策定への貢献を目標とするもので、そのために日本に移民を輩出している農村での世帯調査、在日バングラデシュ人への聞き取り調査や彼らの間で流通しているエスニック・マガジンの内容分析、日本で一定期間就労を経験したのちに帰国したバングラデシュ人の社会・経済状況に関する聞き取り調査が実施された。移民の送り出し国、受け入れ国双方での調査結果をつなぎ合わせることで、国境を越えた人的移動の実態やダイナミズムを明らかにするという研究手法は、評価できるものであり、研究も掲げた目標に沿って実施された。

ただし、スタート時における研究代表者の交替や2年間の研究プロジェクトということもあり、調査結果に関する踏み込んだ分析が不足しているといった点は指摘せざるを得ない。その結果、調査から得た知見をバングラデシュ社会の問題解決に向けて活用するための具体策や日本の移民政策策定に向けた提言については、政策的・社会的ニーズに十分に答えることができたとは言い難い。



3. 社会的・政策的にニーズに応える研究成果が創出されたか。

- A. 十分創出された                       B. 概ね創出された  
 C. ある程度創出された                 D. あまり創出されなかった  
 E. 創出されなかった

〔コメント〕

本研究課題は、人的資源の送り出し国であるバングラデシュと受け入れ国である日本における現地調査をもとに、来日したバングラデシュ人の社会経済的背景、来日のルート、日本での暮らし、帰国者の活動などを明らかにすることで、日本におけるより建設的な外国人政策の立案に貢献することを目指してきた。それと同時に、日本で一定期間就労を経験したのちに帰国する帰国者たちをバングラデシュ社会の問題解決に活用する方法を提言することも目標としてきた。

現地調査から、来日を希望するバングラデシュ人に対して日本語学校がブローカー的な役割を果たしている実態が浮かび上がってきたが、質の低い日本語学校の乱立を防ぐためにも、オーソライズされた日本語教育を実施する必要があることを提言している点は評価できる。

一方、滞日経験のあるバングラデシュ人は、日本で学んだ労働規範などを高く評価しているものの、帰国後、日本での経験を生かす機会に恵まれているとはいえないという調査結果から、バングラデシュ社会の問題解決のために帰国者を人材として活用することを提言している点については、十分な分析に立脚しているとはいえず、提言内容も具体性を欠いている。

4. 学術的に高い水準が確保されているか。

- A. 十分確保されている                       B. 概ね確保されている  
 C. ある程度確保されている                 D. あまり確保されていない  
 E. 確保されていない

〔コメント〕

バングラデシュの農村における悉皆調査、日本に滞在するバングラデシュ人への聞き取り調査、滞日バングラデシュ人向けの雑誌の分析などを通じて、バングラデシュと日本との間を移動した人々の属性や日本での経験、帰国後の様子などをある程度明らかにした点は評価できる。

一方、文化人類学、地理学、開発経済学、社会学などの観点から、調査結果に関する踏み込んだ分析が不足していることや、2年間という短い期間で最大の努力がなされたとはいえ、学術論文の出版を含め、研究成果の公表が十分とは言えず、本研究課題の最も特筆すべき成果が何であったのかについて、十分に明らかにされていない。